

「オリヴァー・トウイスト」に見るロンドンの下層社会

松永 巖 経済学部教授

産業革命以後反映を続けていた一九世紀前半のイギリス、そのような時代のロンドンの華やかさの裏にある救いがたい影の部分に目を向けてみようと思う。「オリヴァー・トウイスト」では、貧しい労働者たちの住む街や盗品市場などリアルに描かれている。ここでは貧民街はどのような場所であり、彼らはどのような生活をしていたのか、エンゲルスの著書も参考にしながら見ていくことにする。

参考文献は次に掲げる。

『オリヴァー・トウイスト』上・下 デイケ
ンス著・小池滋訳・筑摩書房

『イギリスにおける労働者階級の状態』1・
2 エンゲルス著・全集刊行委員会訳・大
月書店

地図・CHUCKLEY'S Newplan of LONDON

improved to 1835, LONDON In 1741-5 by John

Roque

なお引用文のページは『オリヴァー』では
(オ・上・三三三)、『イギリス……』は(イ・1
・四九)のように表示する。引用文中の「……」
は筆者による。

サフロン・ヒル一帯

泥棒のボス、フェンギン一家のアジトがある地域。オリヴァーはロンドンの北の郊外バーネットでフェンギンの手先ジャック・ドーキンス(「ドジャール」)少年に出会い、彼に連れられて、サフロンヒルへやって来る。この界隈の様子はオリヴァーの目を通して描写される。

通りは狭くて泥だらけ、あたりにはいや

な臭いが立ちこめていた。小さな店がいっぱいあったが、そこに見られる商品は子供
の群れだけのように思われた。……居酒屋
では最低のアイランド人が……やかまし
く喧嘩公論の真最中。表通りから……枝分
かれしている……路地の奥には数軒の家が
かたまつて見えるが、そこでは酔っぱらつ
た男女が文字通り泥にまみれて転がって
いた。(オ・上・一〇八)。

ここには、エンゲルスが言う貧しい労働者
の生活が写し出されている。

彼らは、水もとりあげられる。彼らは、
あらゆる廃物やごみ、あらゆる不潔な水、
それどころかしばしば胸のむかつくような
あらゆる汚物や糞尿さえも、街路のうえに
捨てるほかない。……貧民は野獣のように

かりたてられ、休息も、安らかな人生の享樂も許されない。貧民は、性的享樂と飲酒のほかは、いっさいの享樂を奪われ……酷使される（イ・一・二〇五）。

サフロン・ヒルとホーバーン・ヒルの間にフィールド・レインという小さな路地がある。フェンギンが相棒のサイクスを捜して、リトルサフロンにある「びつ」亭（The Cripple）へ行く途中ここを通って行く。

スノー・ヒルとホーバーン・ヒルとがおち合う近辺に、シテイ区から行くと右手の方にサフロン・ヒルに通ずる狭い陰気な路地があつて、そこに並んだ汚らしい店では、あらゆる大きさと模様の中古の絹ハンカチを、どつさり束にして売っている、つまりここには、すりから買い取る故売商人が住んでいるのである。フィールド・レインというのは、……こそ泥の盗品市場である（オ・上・三三七）。

フェンギンは自分の手下がすつてきた物をここで換金する。このあたりでは顔役である。エンゲルスはロンドンの貧民街の一つとして、「からの巢」(Cocker)と呼ばれるセント・ジャイルズをあげている。ここは、オクスフ

ード・ストリートとリーゼント・ストリートや、トラファルガ・スクエアとストランドのすぐ近くにあると言っている。労働者階級の人たちだけが、「家には地下室から屋根の近くまで人が住んでいる」劣悪な環境の中で生活をしている。

街路のあいだにはさまつた狭い囲い路地にある住宅……そこにはいるには、家と家のあいだにかくされた道を通るが、そのの不潔なことと荒廃したありさまは、とうてい考えられないほどである。……ここには貧民のなかでも最も貧しい者、すなわち最も少ない賃金しか支払われていない労働者が、泥棒、詐欺師および売春の犠牲者といつしよに入りまじつて住んでいる。……この大部分はアイルランド人かその子孫であり……（イ・一・九二）。

セント・ジャイルズは、エンゲルスによると、大きな街路が通る予定になつていて、なくなることになつたということである。現在の地図では、ニュー・オクスフォード・ストリートの南に接して、セント・ジャイルズ・ハイ・ストリートという名称がある。同一であるかどうか定かでない。ただ西隣にはソー

ホーがあり、この一帯にあつたであろうといふことは想像されよう。

ホワイトチャペル、ベスナル・グリーン

オリヴァーはドジャーとベイツの監督のもとで、すりの現場へつれて行かれる。この二人が実際にするのを見てオリヴァーはびつくり仰天して逃げ出すのだが、まもなく捕まつてしまふ。警察法廷に引き出される。このことを知つたフェンギンは身の危険を感じアジトを移す。その移転先が「ホワイトチャペルの近く」(オ・上・二五二)であつた。

オリヴァーは、しばらくはフェンギンの手から逃れることができたが、すぐにサイクスとその情婦ナンシーに見付かり、ホワイトチャペルのアジトへ連れて行かれる。

三人は人通りのあまりない汚らしい道を、たつぷり三〇分も歩き続けた。……とうとう三人が古着屋だけけみたいな汚らしい狭い路地に入り込と、犬は……閉まつた戸口の前で止まつた。その家は荒れ放題で、入り口の戸には貸家札が釘で打ちつけてあつた(オ・上・二〇八)。

これがフェンギンの新しいアジトである。

ここからほど近く、ベスナル・グリーン近くの近
くには、サイクスとナンシーの家がある。フ
エンギンは、盗みを企てた、その計画の打ち
合せのために、サイクスを訪ねる。

彼は曲がりくねった狭い道を歩き続けて
ベスナル・グリーンまでくると、急に左に
折れて、そのあたりの人家の密集した地域
に網の目のように張りめぐらされてある、
見すばらしい迷路の中へと入って行った
(オ・上・二五三)。

この一帯は、ロンドンの労働者の大部分が

集中している所で、エンゲルスは、彼らの生
活の窮状を例示している。

最後に、ナンシーを殺し、追われる身とな
ったサイクスが逃げ込んだのは、まさしくロ
ンドンの東のはずれ、ロザハイスであった。
テムズ川の南岸に位置している。彼はここで
死ぬことになる。

以上、下層階級の人々の生活と居住区につ
いて見てきたが、地図上で見ると、このよう
ないわゆる貧民街が、イースト・エンドだけ
とは限らず、ロンドンの中心地域にも存在し

ていたことが分かる。

ソーホーからコベントガーデン一帯を経て
ホーバーン・ストリートに沿ってサフロン・
ヒル一帯まで、それからさらにウエスト・ス
ミス・フィールドを経てホワイトチャペル、
ベスナル・グリーン一帯へと続く一本の帯状
の線を描くことができるようである。

なお、これまで取り上げてきた地名につい
ては、資料1、2、3の地図を参照してい
たい。

資料1 サフロン・ヒル一帯、ソーホー

①サフロン・ヒル②フィールド・レイン③ホーバ
ーン・ヒル④ソーホー⑤現在はこちらにニュー・オ
クスフォード・ストリートがあり、ハイストリー
トのあたりにセント・ジャイルズ・ハイストリー
トがある

資料2 ホワイトチャペル、ベスナル

①ホワイトチャペル②ベスナル・グリーン③ウエ
ストスミスフィールド④パービカン⑤チズウエル
・ストリート⑥サンストリート⑦スピトルフィー
ルス⑧⑨はサイクスとオリヴァーが泥棒遠征に
行く時通った道

資料3 ロザハイス地区

①ドック・ヘッド…ここから遠くにジェイコブ島
が見え、そのジェイコブ島にある一軒の家に、サ
イクスが逃げ込み、最期を迎える。②ジェイコブ
・ストリート

